

空き家の実態調査の結果一覧

◎ランク別結果 (単位：件)

空き家総数 419件 (H27比較 +50件 13.6%増)

	R7	H27	解消	追加
Aランク	3	5	3	1
Bランク	51	49	27	29
Cランク	365	315	228	278

H27調査と比較して、全体で13.6%増加。

Bランクは、解消が全体の約50%程度であり、解消の進捗が一定程度にとどまっている。

実態調査の目的・手法等

空き家のランク基準について

「建築不良度」「周辺に及ぼす影響」「悪影響の程度と切迫性」を踏まえて、総合的に判断。

各視点の詳細(抜粋)
「建築不良度」・・・建築物の安全性

「周辺に及ぼす影響」・・・衛生状態、景観、生活環境の保全

「悪影響の程度と切迫性」・・・苦情の量、切迫性の高さ



実態調査の目的・手法等

空き家のランク基準について

具体的なイメージ

物件ごとに、下記の①～③の判定を行う。

①「建築不良度」「周辺に及ぼす影響(衛生、景観)」をそれぞれ3段階(A～C)で判定し、点数化する。(A30点、B20点、C10点)

②「悪影響・切迫性」(A～B)を2段階で判定し、点数化する。(A2点、B1点)

③①に②を乗じて点数ごとにランク判定をする。

ランクA 100点以上

ランクB 60点以上

ランクC 60点未満

◎地区別結果 (単位：件)

①中央地区	171 (41%)	④東地区	32 (8%)
②泉地区	103 (25%)	⑤南地区	26 (6%)
③西	87 (21%)		

・中央地区の空き家が全体の41%を占める。

◎用途・階数の状況 (単位：件)

建物用途		階数	
戸建て住宅	391 (93%)	2階建	341 (82%)
店舗、事務所	26 (6%)	平屋	77 (18%)
共同住宅	2 (1%)	3階建て	1 (0%)

・戸建て住宅が全体の93%と最も多い。

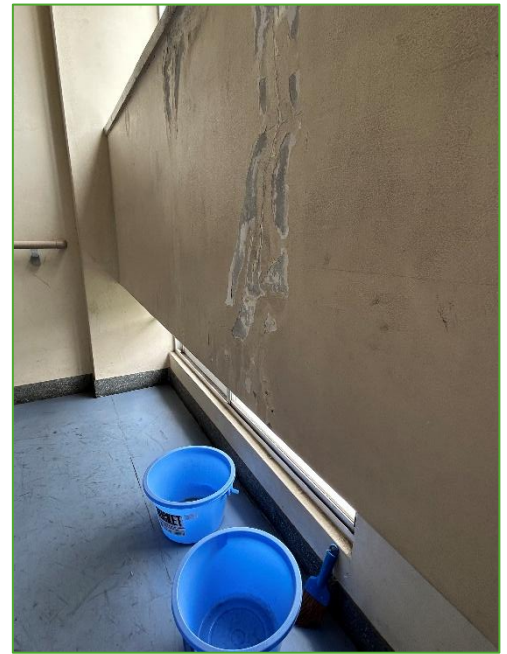
・階数では2階建てが全体の82%を占めている。

◎建物・管理の状況 (単位：件)

建物の状況		管理の状況	
屋根の剥落等	125 (30%)	樹木・雑草	190 (45%)
外壁の損傷等	102 (24%)	ゴミの放置	82 (20%)
傾斜	7 (2%)	害虫・害獣	47 (11%)

・空き家の約30%で屋根の剥落等が生じている。

・空き家は約45%で樹木や雑草の繁茂が生じている。



2026年5月8日に杉戸町立西小学校と杉戸町立高野台小学校を見学させていただき、これらの写真は杉戸町立西小学校で撮影させていただいたものです。校舎では壁の剥落・雨漏りなど、体育館では天井の一部が剥がれ、床には天井から落ちてきたと思われる木くずなどが見られました。